

■九州朝日放送番組審議会議事概要（1月分）

第589回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成29年1月16日（月） 午後4時00分～5時30分
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名  出席委員数 7名  欠席委員 1名（レポート提出）</p> <p><b>（出席委員）</b>  宮田克彦委員長、古宮洋二副委員長、  池田勝委員、安恒万記委員、井手雅春委員、  三好京子委員 野田幸之輔委員</p> <p><b>（放送事業者側出席者名）</b>  代表取締役社長 和氣靖  専務取締役編成制作局長 半田俊彦  取締役ラジオ局長 清水透  報道局長 松延健次  メディアビジネス局長 奥園徹  メディアビジネス局次長兼国際ビジネス部長 江原竜彦  デジタルビジネス部長 香月和宏  視聴者・広報室長兼番審事務局長 久芳康治  事務局員 都合信司、松田泰久</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>メディアビジネス局デジタルビジネス部発のコンテンツ  「5D ARCHIVE DEPT.」  「暗闇三太」（くらやみさんた）  「こわぼん」  「おならプロジェクト」  「戦国鳥獣戯画」  「クリエイティブ・ディグ」</li> <li>平成29年1・2月ラジオ・テレビ番組編成状況</li> <li>平成28年11・12月視聴者・聴取者応答状況の報告</li> <li>その他</li> </ol>
議事の概要	<p>◎委員の意見（概要）</p> <p>委員からは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「5D ARCHIVE DEPT.」は、博多織や八女の手すき和紙など、福岡県の伝統的な地域産業が生み出す音をパーカッションとしてダンスに取り入れ、紹介していくスタイルは斬新で良い。</li> <li>○「暗闇三太」は実際の高度成長期のアーカイブ映像が使用されており、アニメとよくマッチしていて良かった。</li> <li>○「こわぼん」は手法が新鮮で日常の画面を上手く切り取り、恐怖感を描いていた。</li> <li>○「おならプロジェクト」はシュールで深夜放送ならではのサブカルチックさが良く、馬鹿馬鹿しくも、文句無しに笑えた。</li> <li>○「戦国鳥獣戯画」は戦国武将が鳥獣戯画風のキャラクターで描かれており、現代風の言い回しで歴史上の出来事を平易に説明しており、受験生の息抜きにもってこいの内容だと思う。</li> <li>○「クリエイティブ・ディグ」は、ゲームのクリエイターや関連産業に携わる方の応援番組として、福岡の地域活性に資する番組である。</li> </ul> <p>などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「暗闇三太」ではシリアスなテーマを扱っているため、現実のアーカイブ映像とアニメの合成は虚実がまぜこぜとなり、誤認や誤解を与えてしまうおそれがあるのでは。</li> <li>○ビジネスモデルとして、これらのコンテンツをどう位置づけ、方向づけていこうとしているのか教えてほしい。</li> </ul> <p>などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アーカイブ映像は時代背景の説明として使用した。</li> <li>○今回の課題番組を制作したメディアビジネス局は昨年の4月に組織化され、番組放送後の番組販売、ネット配信や国際的な展開により、昨今の若者を中心としたテレビ離れに対して視聴ターゲットを絞りながら、どう展開できるかを模索している。</li> <li>○ビジネスとしては今回の作品は放送や機内上映をはじめ、海外30か国に配信されており、契約内容等は個別で対応している。現在、中国本土での視聴対象者はコンテンツ合計でおよそ1.4億人である。</li> <li>○スマートフォンでの利用を考えると、コンテンツは3分程度が良いと判断している。</li> <li>○深夜枠での「とがった番組」であり、万人受けはしないが、経営的には先行投資的なチャレンジ枠として、これからだと思っている。</li> </ul> <p>などの説明をしました。</p>